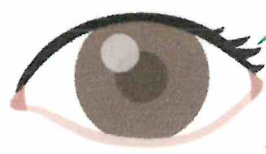




生きる 自分が見ている



自分が見ている

そうなんですよ！結局のところ、「誰も見ていない！」って思
て、けれど、誰かに見ている人がいるんですよ...

とうとう六月に入ります。六月と言えば「梅雨」、水泳のシーズン、中絶夏季大会、最初の定期テ
ストが始まります。少しづつ、雨もよく中絶みかおとくる時期でもあります。

本題は「自分が見ている」です。！！

学校の決まりを守ることはあたり前のことで、それができたから「すごい」にはなりません。できてあたり前のことをさら
「下事徹底」と目指すのがいいですね。私の担任時代は、よく教室の黒板に「書きわりました。でも、これは考
えたらすぐあたり前のことで、授業に来られる先生が気持ちよく授業をまわす。自分たちも気持ちよく授業を受けること
ができる。だからこれを「すごい」とは思いません。

お中学生です。みんなに望むことはその先にあります。それは、自分のことだけでなく、気持ちいたら自分のこと以外のことに
ピンと行くこと。例えば、廊下にゴミが落ちていて、自分がそれを拾って誰かに見てほしいから拾うのか？それ誰か見て
ほしいから素通りするのか？

善いことも悪いことも理由は同じ。同じ人は都合がよくて、善いことは誰かに認められたいから見せたがるけど悪いこと
や失敗は隠そうとする。損得勘定が抜きに...。君のやることは、おれたちから誰も見ていないし、知らずにはいられない。
「よし、たまたまいいだけ、一番近くで君のやることを見て、いる人がいます。それは、他でもない君自身です。
自分を大切に、自分に正直に、そして自分を誇れる生き方をして、いきたいですね。

心のすずなと深の月間

— いじめや差別を許さない学校づくりを目指して —

〈各学年の人権学習の取組〉

- ・1年生...水俣病問題学習
- ・2年生...母の事(すずな)
- ・3年生...ハンセン病問題学習

本年度では、6月と「心のすずなと深の月間」とし、学校・家庭・地域が連
携して、子供自身が「心のすずなと深の月間」を、いじめや差別を許さない学校づくり
のために取り組んでいきます。

今週から本格的に各学年で人権学習をスタートしました。また、6月26日には
校内人権集会を完結予定で。

〈全国人権作文コンテスト〉

過去の入賞作品より～啓発詩～

あの子はよくいじめられる
 今日もまたいじめられている
 あの子がこっちを見た
 その目は「助けて！」と言っていた
 慌てて目をそらした
 その瞬間ひとりの人間の心を引き裂いた
 家に帰る途中
 まるで全速力で走った時のように
 苦しくて苦しくてドキドキしていた
 「助けに行こう！」そう思ったとき
 僕は学校に向かって走っていた

ななま！



おそれなく人は、「いじめや差別を許さない」「差別は許さない」とはわかって
いて、「NO!!」と言っている。しかし、それを終わらせてはいけませんね。大切
なことは、「考えること」「想像すること」です。これは自分事としてとらえるか。今の自
分自身、そして今の自分の教室の現状に目を向けることです。教科から学んで
終わりの人権学習であってはいけません。

みんなには一人ひとり違った個性や考え方があり、それと認め合い支
え合うことで学校生活は豊かなものになります。心のすずなと深の月間のために
大切なことは、相手の気持ちを想像することです。この六月は、人権学習を
通じて、友だちを大切にすることを育んでほしいと思います。そして、友だちを大
切にすることは同じくらい、自分自身も大切にしてください。悩みや不安をひと
りで抱えたり、友だちや先生、家族の人に相談することも大切です。
心のすずなと深の月間、そして人権学習を通じて、つながり、そして自分を
大切にすることを意識し、誰もが安心して過ごせることのできる北中を創ら
ていきます。

この機会に、家庭において、子供自身が「自分を大切にすべ
い」「人の役に立っている」など、自己有用感を感じることが大切です。肩か
し、感動を共有できる場面をつくり、つながり、そして自分自身を大切にすべ
い。